

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第121版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵

3 補助金の交付要件

保育所等が保育士の業務負担を軽減するため、以下の①から③までに掲げる全ての機能を有するシステムを導入すること。（導入済システムのカスタマイズに係る費用は補助対象外。）システムの導入に当たっては、これらの機能に加え、保護者が負担する利用料金の請求に関する機能や職員の勤務シフトの作成機能など、保育士の業務負担の軽減に資する他の機能を付与することができるものとする。

- ① 保育に関する計画・記録に関する機能
- ② 園児の登園及び降園の管理に関する機能
- ③ 保護者との連絡に関する機能

ある地域の保育所等におけるICT化推進事業への補助金の交付要件

目的を忘れない働き

持っている企業のものを使うことが一番良いのだと学びました。

そう思うと、なぜこの補助金は一社じゃないといけないのだろうと疑問が湧きます。国もせっかく予算を出すのに、変な縛りをつけることで、「使い物にならない」「手間が増えた」など先述のような園の先生からの声が出てきてしまうのは、望んでいないはずですよ。

そんな矢先、ある地域のお客様から「ミマモリングソフトウェアを導入したいけれど、ICTの補助金の要件には合わないから導入は無理よね!？」と連絡がありました。これ以上同じような苦しみを味わってほしくないと思い、意味のある補助金の使い方が出来るように、一社のシステムではなく、強みを持ったシステムを複合的に導入できるようにしてみましたどうかと役所に連絡をしてみました。すると、

「実は、複数の会社のシステムを導入して交付要件を満たしてもらっても全く問題ありません。国への確認も済んでいます」という答えが。現在、そういう問い合わせを頂いた園にはできると伝えているそうです。



子どもたちの未来に確かなものを。
何のために働くのかという目的・動機を忘れないように

早速、それをお伝えすると、「あの文章ではその解釈は出来ないでしょう。疑問にも思わなかったですね」と言われ、私も同感です。

何の意図があってそういった表現にしているのかは不明ですが、表現一つで多くの弊害を生み出していることを思うと、「何のために」という上位目的を忘れず、働くことの大切さを改めて感じます。

目的を忘れれば、折角のお金も水の泡となるのは、家庭でも企業でも国でも同じだと思います。私たち大人の仕事は、未来の子どもたちへ譲りたい社会を作っていく仕事であることを忘れずにいたいと思います。

発展する学び

京都にある幼保連携型認定こども園木津さくらの森様をお伺いしたその日は、午後から夏祭りが行われるということで準備がされていました。その中で「色遊び」から「お茶屋さんへ」という掲示物が貼り出されていました。

掲示物には①4月園庭の草花を使って色水遊びをする子どもたち②お茶づくりに関する絵本を読み、興味が深まる：と月が経るごとに子どもたちの遊びが発展していく様子や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」との関連付けがされていました。

この取り組みについて先生にお話を伺うと「前年も色水遊びからはじまり、園のすぐ近くにあるお茶屋さんに子どもたちとお茶摘み遠足に行きました。今年は更に茶道の先生に来て頂いたり、子どもたちの興味・関心に寄り添うことで遊びが発展し、夏祭りでお茶屋さんを行うことになりました」と仰っていました。色水遊びから、ご家族や夏祭りに来られた方にお茶を振る舞うことに至った子どもたちは、掲示物で発信されているように、日々学んで夏祭りを迎えたのだと感じました。



夏祭りを迎えるまでのプロセスが発信されていました。

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

遊び心⇨豊かな暮らし



左側が草取り前、右側が草取り後！ 数メートル進むのに何時間も要します。

千葉のカグヤ田に今年2回目の草取りへ！ 当日は晴天に恵まれ、近くの保育園の先生方も参加して下さいました。気合い十分でスタートしましたが、作業が進むにつれ気温も上昇。黙々と草と格闘する中、突然「ギヤー」の声。驚いて顔を上げると先生方は抜いた草を投げ合っては大笑い！ 全身泥まみれに！ その光景にこちらの空気もふっと緩みます。しかし目の前の草はいくら抜いても減らず、後ろを振り返っては焦り、頑張つて終わらせるべく 再びゾーン状態に。すると今度は遠くでキャッキャツとはしゃぐ声が…。気付けば先生方は近くを流れる川で網を片手に魚獲りに夢中になっています。その様子はまるで子どもが好奇心に目を輝かせ心の底から楽しんでいるかのようで、「草取りを進めねばならない」義務感が先にきて楽しむ

ことを忘れていた自分たちに気付きます。きつとどんなに大変なことも、気持ち次第で楽しみに変えられるのだと全力で楽しんでいる先生方から教えていただきました。

また、今回は考案から半年を経て完成したオリジナル米袋のデビュー日でもありました。途中で頓挫しながらも思いを繋いで完成したもので、「もっと豊かに味わい感謝できる昔ながらの暮らしを子どもたちに残したい」という気持ちを込め、デザイナーさんの協力のもと無事に袋詰めの日を迎えられたことには感謝しかありません。そしてそんな日に、何事も全力で楽しむ先生方と一緒に袋詰めができたことも何かのご縁。先生方の楽しむ姿からは袋のデザインに込めた願いそのものが感じられ、何事にも遊び心を忘れずに全力で楽しむ豊かさを学ばせていただきました。



蛙やドジョウの生き物いっぱい！ 昔ながらの早乙女のイラストも♪

一期一会庵

感謝のことば

昨年、自分のご先祖様のルーツを辿ったことで郷里の神社とのご縁が深くなりました。

こちらの神主様も、元を辿れば同じ姓を持つ方で改めてご先祖様への感謝のご祈禱をしていただくことになりました。

今回は、特別な感謝祝詞を宮司様に用意していただき一族みんなでその祝詞を奏上するという具合に進行していきました。

その感謝祝詞が素晴らしかったのをご紹介します。

『安らかな心と清らかな気持ちで老松神社の神様の大神前に謹んで申し上げます。』

神様の広く厚い御恵みや高き尊き教えによりまして親族家族たちが睦び和みましてこれからも力を合わせ心を一つに身を慎み事に励み、ご先祖様に喜びと感謝の心をもって麗しく奉仕する姿をご覧いただき、子孫が永く栄え家も身もより高くより広く反映するやうに謹んでお願い申し上げます。』

みんなで声を出して祝詞を奏上し

たのははじめてでしたが、心を一つに調和していく言葉に有難い気持ちになりました。

思えば、はじまりを辿れば最初の二人の夫婦が私たち子孫のはじめの両親になります。

そこから何度も何度も枝分かれしていき、長い時間と様々な物語を通して今の私になっています。

当たり前ですが、今の自分があるのはなぜかと思う時、懐かしい記憶に包まれている安心感に出会います。

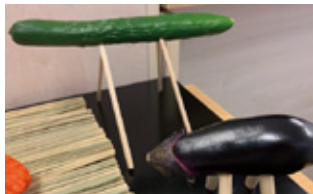
ちょうどこの時期はお盆やお彼岸ですが、むかしの人たちは先祖の霊や魂がこの時期に古里に帰ってくると思われています。

遠大な歴史と膨大な人々の魂を鎮め感謝で祈ることは、今の私たちがいのちを継承していることを懐かしみ慈しみ感謝を味わう大切な機会になるように思います。

私たちもまたそのうち死んで先祖になります、その祈りは懐かしい未来の子どもたちの一部になるように思います。

日々、感謝のことばを忘れずに子どもたちの未来に確かな今を譲り遺していきたいと思っています。

編集後記



【室礼】馬の足は、軽快に走れるよう細長い箸を、荷物を運ぶ牛の足はちょっと太めの麻幹(おがら)で。

地域によっては、もうすぐお盆の行事を行う方も多いのではないのでしょうか。

最近では、社内の室礼もお盆をテーマにしていますが、今年は新たに入社したクルーも一緒に、なすやきゅうりでご先祖様をお迎える牛と馬をつくりました！

また、ちょうどお盆期間中は、私たちも「夏季実践休暇」として、

皆それぞれにテーマを設け充実した休みを過ごせればと考えています。それぞれの取り組みについては、今年も弊社ホームページ内のブログにて報告させて頂きますので、よろしければご覧下さい。

まだまだ、厳しい暑さが続きますので、いつも以上に休息をとりながら、皆様元気に夏を乗り切っていきましょう！（宮前奈々子）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます